



日本一の栗を堪能!栗拾いツアー



先日、顧問の中村シェフに丹波栗の栗拾いの日帰りツアーをおすすめされました。ただのツアーではありません。なかなか手に入らない貴重で大きな栗と、中村シェフの料理が味わえる、と。こんな貴重な体験滅多に出来ません、行くしかないでしょう!

今回、家族4人(大人2人、小学生、幼児)で参加しました。ツアーバスに乗り込み、まずは京丹波町にある丹波農園へ。到着後は農園代表の榊原さんから流れと注意事項を聞き、イガ栗から頭を守る帽子をかぶって、いざ、栗拾い開始です。

まず農園に入って驚いたのはイガ栗の大きさ。今まで見たことのあるイガ栗の2倍はあるのではないのでしょうか。そんな大きなイガ栗を渡されたトングで紙袋に入れていきます。「良いものを後から選別するから、とりあえずどんどん拾って!」というアドバイス通り、紙袋いっぱい拾っていき、持ち運ぶのも大変な重さになってきたので次のイガ取り工程へ。

一般的にイメージする栗拾いは足でイガを押さえて、中の栗を取って、というものですが、丹波農園では機械でイガを外してくれるので楽ちん!機械であつという間に実だけになって行く様子を見るのも面白い体験でした。そしてイガの外れた実を見てみると、ひとつひとつの大きさに再度驚かされました。

さらにその栗を農園の榊原さんが一つ一つ選別、残った良い部分を選んで、袋詰めして出来上がりです!

この丹波農園の栗は、高級レストランや料亭に出荷され、日本中の一流パティシエが望んでもなかなか手に入れることのできないとても貴重なもの。さらに、今回のような一般向け栗拾い体験はしておらず、まさに、特別な体験です。ツアー料金に含まれている1人500gの持ち帰り分のため、我が家は4人分の2kgを収穫。貴重な栗を味わえるせっかくの機会なのでいろいろなお料理で楽しみたいと思います。

さて、栗拾いの後は、近くの丹波ワインを見学、その後は丹波農園に戻ってお待ちかねの栗三昧ランチです。中村シェフのご挨拶や、地元食材を使った前菜を楽しんでいる間にメインの栗のパエリアが完成。巨大な鍋から中村シェフ自らに取り分けられたパエリアは、魚介の味と共に丹波農園の栗が入った豊かな味わいでした。

また、ただ食事をするのではなく、モンブランの絞りだし体験や特大サイズのシロップ煮の獲得をかけてじゃんけん大会を行ったりと、和気あいあいと楽しい時間を過ごすことが出来、参加者皆さんご満足のご様子。

ランチの後は、京丹波の道の駅や亀岡のコスモス園をめぐるツアー終了。ツアー料金一人12,980円は出費にはなりましたが、お値段以上の体験が出来ました。

今回のツアーは『グリーンツーリズム』として京丹波町の魅力を味わってもらう、という趣旨のものでした。グリーンツーリズムとは、緑豊かな農村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のことなのですが、ツアー参加者は日頃体験することのできない貴重な体験や、味を楽しむことが出来、一方で旅行は経済的効果・地域の魅力の発信ができるというメリットがあります。

今年の栗拾い体験はもう終了してしまいましたが、皆様もぜひグリーンツーリズムを体験してみたいかがでしょうか。(筆:綾部)



↑大きな栗がとれました



↑贅沢な栗のパエリア

メディカルツーリズム？新病院は観光で儲ける？

心斎橋から北の方、扇町公園という大きな公園があるのですが、その南側にいつの間にか大きな施設ができていました。

その名は「i-Mall(アイモール)」。10月に誕生したばかりのこの施設の正体は「医療と劇場とAI」という魔訶不思議なコンセプトの医療複合施設です。興味深いのは「健康医療ツーリズム」を標榜しており、国際診療部という外国人患者専用の部署が作られたこと。一日22万円という特別個室を備えるなど、富裕層向けのサービスもばっちり。



メディカルツーリズム(医療観光)は最近でも大阪観光局とJTBが連携するなど、コロナが落ち着いてきた今、あらためて注目されつつあります。実は世界のメディカルツーリズム市場は5年後には約30兆円規模になるとも言われる巨大市場。今は韓国やタイに後れを取っていますが、日本の医療はWHO等で世界でも随一だと評価されており、充分巻き返しも期待できそうです。

国民皆保険の日本とは異なり、自費診療でしかも高額な医療費がかかる国は多く、例えばアメリカでは盲腸の手術(一泊)で500~600万もかかるそう。それを考えると、円安の今、観光しながら世界でもトップクラスの診療を受けられるとあれば特別個室を使ったとしても割安に感じるかもしれません。

まだまだ日本での取り組みは始まったばかり。病院内の体制はもちろん、海外の診察希望者と病院を繋ぐコーディネーターの整備や、我々地元市民の地域医療との棲み分けなど官民一体で取り組むことが出来れば、新たな日本の観光資源となっていくことでしょう。(筆: 豊田)



寝ながら遊べる睡眠アプリ『ポケモンスリープ』

今年7月にリリースされ、慢性寝不足国と言われる日本が世界収益の65%を占めている話題のスマホ向けアプリ『ポケモンスリープ』。寝る時に枕元にスマホを置くだけで、寝ている間に睡眠を計測・記録・分析し、眠った時間に応じて「カビゴン」というキャラクターが育ち、集まってきたポケモンたちの寝顔を集める「寝顔凶鑑」なるものが作成される睡眠育成ゲームです。



↑カビゴン

↑睡眠データ

気になる「睡眠」の計測方法は、寝返りなどの体動を検知して睡眠の深さを読み取る仕組みですが、超低反発マットレスなどでは衝撃吸収性が良すぎて、寝返りを検知できず、睡眠計測の精度はそんなに高くないようです。

このことはアプリ提供者側も理解しており、睡眠の深さはゲームに関係がなく、重要なのは、「睡眠時間」と「睡眠リズム」。睡眠時間に比例して睡眠スコアと育成スピードが上がります。睡眠リズムによって寝顔の種類も増えるため「カビゴン」を育てたい! 「寝顔を集めたい!」という動機を寝る時間の増加につなげる仕組みになっている、「寝てなんぼ」なゲームです。

それなら、たくさん寝ればスコアが上がると思いきや、このゲームを始めてから1か月、ショートスリーパーの私の一日の睡眠時間は、以前と変わらず3~4時間ほど。睡眠導入サウンド機能によって一定時間オルゴール調の音楽が流れ続けますが、耳障りで余計に眠れなくなり、消音中です。「いい睡眠リズムをつかまよう」をコンセプトにした、寝てる間に勝手にゲームが進むアプリのため、寝つくまでは自己努力。そのため、いまひとつ満喫できない日々が続いています。それでも、カビゴンの成長が嬉しくてやめられなくなりました私にとっては、「睡眠育成」ではなく、「母性育成」ゲームになってしまっているようです。

(筆 三上)

編集後記

今回の松前屋通信はいかがでしたでしょうか。だんだんと寒くなり、布団が恋しい季節ですね。楽しみながら睡眠を計測してくれるアプリは興味深いですね。私もやってみたいですが、寝相の悪い息子に邪魔をされそうです。 綾部